

# 飾結美 同好会

活動日 : 毎月第2・4火曜日  
10:00~12:00

生活彩る

伝統結び

草津市のグループ「飾結美」は、一本のひもで花やチョウなどを表現し、香道、茶道の結飾り、僧侶の法衣の飾りの結びの伝統技法「飾り結び」を使って作品の制作に励んでいる。伝統技法を後代の生活に受け継ぎようとする心掛けており、温かみのある作品を生み出している。



一緒に活動しませんかと呼びかける「飾結美」のメンバー



季節を飾る作品

「飾結美」の代表者である杉江洋子さん(81) (京都府宇治市)は「活動を通じて、いろいろなサークルがあるので、新しい作品も多ければいい、分らないことも、一人一人のペースでじっくり取り組み、何よりも楽しんでほしい」と話している。また「活動を通じて、いろいろなサークルがあるので、新しい作品も多ければいい、分らないことも、一人一人のペースでじっくり取り組み、何よりも楽しんでほしい」と話している。

市立長寿の郷ロクハ荘(草津市瀬分)で2000年に開かれた飾り結び講座を約半年間受講した有志17人が同年11月、今後を続けていくことを結成した。現在、主に第2、4火曜日の午前中、40~80歳の女性7人がロクハ荘で活動している。ひもは直径1~4mm、長さ約50~80cmで、約70色を使用。1~3mmの本を使いながら、四季を感じる動物や正月などを色紙に表現したもの、動物や花のアロージチといったアクセサリ、掛け、壁飾りなどを制作。1回で完成する作品から、数回かけて作る大作まで様々な。講座二時から指導する飾り結

## 締め方、配色工夫

基本を大切にしながら、結び方の指導を受けて初級者、中級者、上級者程度の技法を組み合わせている。文献で見つけた、新しい結び方に挑戦するなどの学び結び方に終わりはないという。代表の和田かほるさん(75) (草津市草津町)は「同じものを作っていても、ひもの締め方、配色などで作品の印象も変わり、それぞれの個性が出ます。贈り物に喜んでもらえること、楽しみにもなります」と話している。また「当時から参加する吉田佐千代さん(75) (同)は「自宅でも制作している、つい夢中になって夜が明けていることもありますが、それはいいですね」と笑顔で話す。「杉江さんの機嫌よく丁寧な指導が魅力」「複雑な結び方に取り組むことで頭や手の体操になります」「日常の情報交換の場です」など各メンバーから様々な楽しみ方が聞かれる。

## 動物や花、四季を表現



近年の干支・甲の土鍋に飾り結びを飾る

指導が魅力」「複雑な結び方に取り組むことで頭や手の体操になります」「日常の情報交換の場です」など各メンバーから様々な楽しみ方が聞かれる。会は毎年8月、ロクハ荘で活動する他の文化同好会と合同開催を計画している。和田さんは「これからは和やかに楽しく、多様な作品に取り組みしていきたい」と、目を輝かしている。会には新メンバーも増えている。

われら

楽しみ人

飾結美 草津